



# フランゼンの甲羅

6月16日

Sudden Fiction Project

高階 經啓  
hirotakashina

## 6月16日のおはなし「フランゼンの甲羅」

---

「明後日(あさって)の人(ひと)」からメールが届いた。

つまり2日もフライングのメールだ。困った。窓の外は雪。屋内にいても空気はぴんと張りつめて冷たく、足元に置いたヒーターが懸命に働いてもせいぜいデスクの周りを暖めるだけだ。わたしは冷える指先をさすりながら何と返事をしたものか考えた。定時連絡のルールを破ったことで嫌味を言ってやろうか。明後日は何を食べたいかリクエストを聞いてあげようか。

頭が切り替わらない。わたしは頼まれていた会議用の資料を明日までにまとめなくてはならないし、そのためには今夜は徹夜も覚悟している。この仕事をきちんとできれば僅かなりとも臨時収入があるし、そうすれば来月も何とかぎりぎりやっていける。そんな状態なのに、そういうさやかな腹づもりを滅茶苦茶にするような内容のメールなのだ。わたしは窓の外をちらちら舞う勢いのない雪を眺めながら考える。

フランゼンの甲羅について聞いたことはあるだろうか。西ゴート族の伝承とされている古代の甕だ。西ゴート族がどこからやってきたか、まだ定説はないが、一説にはスカンディナヴィア半島から南下してドニエプル川の西岸の地域に居を構えたという。フランゼンの甲羅のことを考えると、北欧発祥説にはそれなりに妥当性があるように思うが、考古学的にはいまだにそれを証明する証拠は見つかっていない。

現在のウクライナやルーマニアあたりに定住していた西ゴート族は、後にフン族に追い立てられるようにして移動を再開する。その多くはイタリア半島に侵入しローマを脅かしたりしながら、さらに西に進み最終的にはフランス南部からイベリア半島にまで及ぶ西ゴート王国を築くことになる。けれどフランゼンの甲羅の伝説を伝えているのはドニエプル西岸に残った少数の者たちだ。

フランゼンの甲羅は工人フィシベヤヌの手になる甕で、開口部の直径が2メートル、胴回りは大人の男3人が手をのばしてようやく手が届くか届かないかという巨大なものだった。表面にはちょうど亀の甲羅のような模様が描かれ、その一つ一つの仕切りの中に西ゴート族がどこから来て何処へ行くのかという来歴を記した神話・英雄譚が描かれていたと言う。

いまは失われてしまって語り伝えられるのみだが、複数の文書にその姿の詳細が記されていることから実在したことは間違いないとされている。伝説によると、カルパティア山脈の山上にあるといわれる幻の湖モルドヴェア湖の湖底に沈んでいるらしい。これを求め日本の考古学調査隊が現地に入り、いくつかの発見をしたのはニュースでも報じられている通りだ。

しかし、こうしてまとめてみると、何から何まであやふやな話だ。西ゴート族の発祥の地も分からない。フランゼンの甲羅も実際に目にすることはできない。フランゼンの甲羅が沈んでいると言われているのは山中の幻の湖だ。そしてそのあやふやな甕に「彼ら」のことが描かれているというのだ。わたしは窓の外を見やり、まばらな感じで降り続ける雪を見てため息をつく。

彼ら。兄を殺し、わたしに取り憑こうとした不死者たち。いま東京にいて、仕事部屋のパソコンに向かい、まばらに降る雪を眺めながら、凍える指でキーボードを叩いていると、あの体験が何もかも作り物のように思えて来る。仕事の締め切りに追われ、確定申告とか財布の厳しさとかで悩んでいると、東欧のホテルでの体験がすべてゴシックホラーなテーマパークのアトラクションだったかのように思われて来る。

けれど明後日の人からのメールには、そんな呑気なことを言ってもらえないような話が書かれていた。大移動前の西ゴート族のルーツを調べる桐山教授の一行がどうやら彼らの仲間を日本に連れ帰って来てしまったらしいというのだ。にわかには信じられないが、明後日の人言うことなら間違いないだろう。全く気が進まない。けれどすぐに確かめなくては。見失う訳にはいかない。見失ったらたちまち病が蔓延する。

ネットで検索すると教授の一行が日本に到着するのは今日の午後19時。それから全員で都内のホテルに移動して一泊するらしい。手に入る限りの資料では、調査隊のメンバーは一人残らずそのホテルに泊まるらしい。そこに行くしかないだろう。手元のお金に苦労して好きなバンドのライブさえ我慢しているのに、と深いため息をつきながら、ホテルに電話をかけ今晚一泊の予約を取る。

夕方までに仕事をできるところまでやって、ノートブックを持って行ってホテルの部屋で続きをやる。パソコンとネット環境さえあればどこでも（それが自宅であろうと都内のホテルであろうと東欧のホテルであろうと）できる職種なのが、こういう時に便利と言えば便利だ。不死者を相手に戦わなくちゃいけない夜に、そんなことをしている暇があるかどうか分からないけど。

（「明後日(あさって)の人(ひと)」 ordered by mina5east-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

## 新作スタート。お題募集中。

---

2011年10月1日。

Sudden Fiction Projectの新作発表が始まりました。

1日1篇ペースをめざしていますが、これはどうなるかわかりません。  
毎日、その日のお題を見て、いきなり書き始めていきなり書き終わる。  
即興的に書くSudden Fictionをこれからお楽しみください。

お題募集中です。

「[急募！お題](#)」のコメント欄で受け付けています。  
どなたでも気軽にご注文ください。初めての人も大歓迎です。

(お題の管理上、TwitterやFacebookでは見逃しがちなので、  
どうか上記コメント欄をご利用ください)

それではこれからしばらく新作のシーズンをお楽しみください。

※発表済みの作品をご覧になりたい方は  
「[SFPインデックス \(ただいま作成中\)](#)」  
をご活用ください。

◇ フランゼンの甲羅

<http://p.booklog.jp/book/42831>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/42831>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/42831>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.